

令和5年度遠野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

- 当地域は全水田面積に占める主食用米の作付面積の割合が約40%で、大豆など土地利用型作物による集団転作や飼料作物の作付けによる耕畜連携、野菜、花き等の園芸作物など、様々な作物を組み合わせた水田農業を展開している。
- 平成30年産からの国の新たな米政策により、生産者は生産調整によらない自由な米づくりが可能となった一方で、人口減少や食文化の変化、新型コロナウイルス感染症による経済活動停滞等に起因し米の消費量は減少している。それに伴う主食用米需要の落ち込みによる米価下落により、主食用米からの他の作物への転換が進んでいるものの、依然として水稻を中心とした本市の農業にとって、安定した所得の確保が課題である。
- 令和5年度より新型コロナウイルス感染症の感染法上の類型が緩和されることに伴い、経済活動の回復が見込まれ米価回復が期待できることに加え、他県の実需者との契約に基づいた安定した米供給先が確保されていること、需要が旺盛な岩手県産ブランド「銀河のしずく」の市内作付面積の拡大傾向等により、今後も主食用米の需要に応じた安定した供給体制が求められている。
- 新型コロナウイルス感染症やウクライナ侵攻等、資材・飼料等の価格高騰の要因となった国内外の社会情勢は今後も先行きが不透明であることから、耕作放棄地を含めた農地の集積化を推進することで市内における飼料自給率の向上を図り、耕種農家及び畜産農家の負担軽減及び所得向上を両立する仕組みの構築が必要である。
- 農業従事者の高齢化や後継者不在により離農する農家は増加しており、農地の受け手となる地域の担い手の育成・確保が急務となっている。
- 中山間地域特有の湿田や小規模農地が多く、水稻以外の作物の作付が困難なこと、担い手に集積されにくい農地構造であるため、全水田の約18%が不作付地の状態であり、今後、耕作放棄地化が懸念される。
- ニホンジカによる農産物被害は年々深刻化し、生息域も拡大している。最近ではイノシシの目撃情報も市内各地で寄せられるなど、有害鳥獣による被害の拡大防止に向けた対策が急務となっている。
- 将来にわたって安定的に農業生産を行い、意欲ある農業者が高い農業所得を確保していくためには、ほ場整備事業の計画的な実施による生産性向上と、「スマート農業」の導入による省力化・精密化、高品質生産を実現するほか、地域の潜在力を生かした6次産業化への展開など、新しい農業のカタチが望まれている。
- さらには、農業・農村の多面的機能が維持・発揮される取組を進め、生きがいを感じて農業に従事できる環境を構築する必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

令和元年度より続く新型コロナウイルス感染症は令和4年度末には終息の兆しが見え、令和5年度のはじめより行動制限緩和による需要の回復が見込まれる。しかしながら、コロナ禍における外食産業の衰退による米価下落に伴う生産者の生産意欲の低下をはじめ、依然として人口減少による消費減少は続いており、引き続き需給と価格の安定に向け、需要に応じた主食用米の生産と、収益性・定着性のある品目への作付転換により農業者の所得確保を図る。

作付転換にあたっては、新たな設備投資や圃場の改良が不要な水稻作付（輸出用米や加

工用米、飼料用米)を基本に誘導を進める。

集落営農組織を中心に作付けされている大豆については、水稲とのブロックローテーションを基本に団地化面積の拡大や生産性向上につながる新たな技術導入の取組を進めることで品質や単収向上による収益力の向上を図る。

野菜や花き等の高収益作物は、第3次遠野市農林水産振興ビジョンに基づき重点推進品目への支援を強化する。

なお、作付転換にあたっては、地域に合った品種の導入による収量向上のほか、低コスト生産技術の導入、担い手への農地集積及び団地化による生産性向上の取組に加え、複数年契約による安定的な農業所得の確保を進める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

令和3年度において、「地域農業マスタープラン」地区検討会の話し合いにより、地域の農地利用状況や、中心経営体による作付意向を確認した。人口減少により主食用米の消費量が年間10万トンずつ減少し続けている現状から、今後の水稲作付は横ばいもしくは減少することが予想される。

圃場整備事業等により水路や排水対策が施された圃場については、水稲や大豆等とのブロックローテーションを中心に引き続き水田としての有効活用を図る。一方で、作物の特性や栽培条件により、畑作物に限定して作付けすることが望ましい圃場については団地化による畑地化を進める。

また、飼料作物については、遠野市畜産クラスター計画に位置付けられたコントラクター組織による大規模粗飼料供給団地構想とも連携を図りながら、畑地化を含めた農地の集積・集約化を進める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

実需先から要望のある「いわてっこ」、及び岩手県オリジナルブランド米「銀河のしずく」を中心に、適地適作や施肥等の適正管理により品質・食味に加え収量の向上を図る。

また、指導会の実施のほか、研修会や各種コンテスト等への積極的な参加により、栽培技術の向上に向けた取組を推進する。

引き続き消費者への積極的なPRや交流事業を実施するなど、米の消費拡大に向けた取組を実施する。

(2) 備蓄米

実需者との契約に基づき、現行の作付面積を維持する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米は、令和6年産以降の一般品種の段階的支援水準の引き下げを踏まえ、前年並みの支援を確保しつつ、国方針の周知を図り多収品種への移行を促す。

イ 米粉用米

取組については想定していない。

ウ 新市場開拓用米

実需先からの要望数量と安定した品質を確保するため、コメ新市場開拓等促進事業(国新規事業)等の支援も活用しながら、生産者の所得向上を図る。

エ WCS用稲

地域の畜産農家からの需要に基づく生産を図るほか、堆肥施用による耕畜連携を進

める。

また、家畜の飼料用として品質及び成分等の評価が高い専用品種の作付拡大を進める。

オ 加工用米

実需先からの要望数量と安定した品質を確保するため、コメ新市場開拓等促進事業（国新規事業）等の支援も活用しながら、生産者の所得向上を図る。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、水稻とのブロックローテーションを基本に、農地集積及び団地化の拡大や生産性向上に向けた取組の定着を図る。地域の単収が全体的に低いことから、土づくりの取組を推進し収量向上を図る。

飼料作物については畜産農家との連携を強化しながら、収量及び品質の向上に取り組む。

（５）そば、なたね

そばについては、排水対策による生産性向上と品質向上を図ることに加え、担い手や集落営農組織への集積を図りつつ現行の作付面積を維持する。

なたねについては取組が少ない状況にあるが、引き続き需要に応じた生産に取り組む。

（６）地力増進作物

主食用米と比較して面積あたりの所得が高い高収益作物の産地化を図る上で、連作障害の回避や、土壌診断に基づく緑肥作物の作付による地力増進を進め収量向上を図る。

（７）高収益作物

遠野市農林水産振興ビジョンに基づき、収益性が高い作物の導入を推進するなど、農家所得の向上を図る。

また、JAいわて花巻等の関係機関と連携し、流通、市場の確保・安定化や技術指導などにより生産量の増大を図る。

ア 野菜

重点推進品目に位置付けるピーマン、ほうれんそう、ニラ、アスパラガスを中心に作付推進を図る。

イ 花き・花木

推奨品目に位置付けるトルコギキョウ、カンパニュラ、リンドウ、小菊を中心に作付推進を図る。

ウ 果樹

推奨品目に位置付けるブルーベリー及びヤマブドウを中心に作付推進を図る。

エ その他高収益作物

市の基幹畑作物である葉たばこ及びホップの作付推進を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等 ～ 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1,454		1,549		1,549	
備蓄米	18		18		18	
飼料用米	279		276		276	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	6		6		6	
WCS用稲	99		100		100	
加工用米	33		33		33	
麦	1		2		2	
大豆	147		132		132	
飼料作物	605		424		424	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	6		3		3	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	2		3		3	
高収益作物	54		59		59	
・野菜	43		43		43	
振興作物①	13		11		11	
振興作物②	2		3		3	
振興作物③	28		29		29	
・花き・花木	6		5		5	
振興作物②	3		2		2	
振興作物③	3		3		3	
・果樹	2		1		1	
振興作物②	1		0		0	
振興作物③	1		1		1	
・その他の高収益作物	3		10		10	
振興作物③	3		10		10	
その他	7		8		8	
・景観形成作物	7		8		8	
畑地化	0		174		174	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	野菜、花き、果樹、雑穀、その他作物	作物作付助成	振興作物の作付面積	(令和4年度) 54ha	(令和5年度) 70ha
2	景観形成作物	作物作付助成 (景観形成作物)	作付面積 産直入込数（年間）	(令和4年度) 7ha (令和4年度) 1,046,392人	(令和5年度) 8ha (令和5年度) 1,200,000人
3	飼料用米	直播栽培による低コスト生産助成	直播栽培取組面積 労働時間の削減	(令和4年度) 10ha (令和4年度) ▲2.5h	(令和5年度) 15ha (令和5年度) ▲4h
4	飼料用米・新市場開拓用米	疎植栽培による低コスト生産助成	疎植栽培取組面積 労働時間の削減	(令和4年度) 144ha (令和4年度) ▲0.5h	(令和5年度) 150ha (令和5年度) ▲1h
5	飼料用米、WCS用稲、麦、大豆	連担団地化助成	団地化面積 労働時間の削減	飼料用米 (令和4年度) 102ha (令和4年度) ▲1.8h	飼料用米 (令和5年度) 120ha (令和5年度) ▲2.5h
				WCS用稲 (令和4年度) 7.5ha (令和4年度) ▲1.5h	WCS用稲 (令和5年度) 10ha (令和5年度) ▲2.5h
				麦・大豆 (令和4年度) 80ha (令和4年度) ▲1h	麦・大豆 (令和5年度) 85ha (令和5年度) ▲2.5h
6	そば	集積助成	集積面積 労働時間の削減	(令和4年度) 4ha (令和4年度) ▲0.2h	(令和5年度) ▲5ha (令和5年度) ▲0.3h
7	飼料作物	集積助成	集積面積 労働時間の削減	(令和4年度) 320ha (令和4年度) ▲0.5h	(令和5年度) 325ha (令和5年度) ▲0.5h
8	飼料用米、大豆	土づくり推進助成	土づくり取組面積 10a当たりの収量	飼料用米 (令和4年度) 77ha (令和4年度) 609kg	飼料用米 (令和5年度) 80ha (令和5年度) 615kg
				大豆 (令和4年度) 82ha (令和4年度) 136kg	大豆 (令和5年度) 85ha (令和5年度) 140kg
9	WCS用稲	資源循環助成 (耕畜連携)	資源循環取組面積 資源循環取組割合	(令和4年度) 40ha (令和4年度) 40%	(令和5年度) 55ha (令和5年度) 60%
10	野菜、花き、果樹、雑穀、その他作物	担い手加算助成①	担い手による対象作物の水田作付面積 対象作物の担い手への集積率	(令和4年度) 15ha (令和4年度) 25%	(令和5年度) 20ha (令和5年度) 35%
11	加工用米	担い手加算助成②	担い手による水田作付面積 10a当たりの収量	(令和4年度) 24ha (令和4年度) 532kg	(令和5年度) 33ha (令和5年度) 550kg
12	飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米	担い手加算助成③	担い手による対象作物の作付面積 10a当たりの収量	飼料用米 (令和4年度) 262ha (令和4年度) 609kg	飼料用米 (令和5年度) 265ha (令和5年度) 610kg
				WCS用稲 (令和4年度) 70ha (令和4年度) 3.5ロール	WCS用稲 (令和5年度) 75ha (令和5年度) 4ロール
				新市場開拓用米 (令和4年度) 0ha (令和4年度) 0kg	新市場開拓用米 (令和5年度) 10ha (令和5年度) 610kg
13	加工用米	加工用米複数年契約助成	複数年契約による加工用米取組面積	(令和4年度) 32ha	(令和5年度) 34ha
14	飼料用米	飼料用米多収品種取組助成	飼料用米面積 多収品種かつ施肥取組面積 10a当たりの収量	(令和4年度) 279ha (令和4年度) 231ha (令和4年度) 609kg	(令和5年度) 280ha (令和5年度) 250ha (令和5年度) 695kg
15	そば、なたね	そば、なたね作付助成	作付面積	そば (令和4年度) 6ha	そば (令和5年度) 7ha
				なたね (令和4年度) 0ha	なたね (令和5年度) 1ha
16	新市場開拓用米	新市場開拓用米作付助成	作付面積	(令和4年度) 6ha	(令和5年度) 7ha
17	新市場開拓用米	新市場開拓用米複数年契約助成	作付面積	(令和4年度) 6ha	(令和5年度) 7ha
18	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	(令和4年度) 2ha	(令和5年度) 3ha
19	WCS用稲	WCS用稲専用品種取組助成	作付面積	-	(令和5年度) 1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
 ※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:

協議会名: 遠野市農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	作物作付助成①	1	25,000	野菜	作付面積に応じて支援
1	作物作付助成②	1	15,000	野菜、花き・花木、果樹	作付面積に応じて支援
1	作物作付助成③	1	5,000	野菜、花き・花木、果樹、その他高収益作物	作付面積に応じて支援
2	作物作付助成(景観形成作物)	1	3,000	景観形成作物	作付面積に応じて支援
3	直播栽培による低コスト生産助成	1	3,000	飼料用米	取組面積に応じて支援
4	疎植栽培による低コスト生産助成	1	3,000	飼料用米	取組面積に応じて支援
5	連担団地化助成	1	2,500	麦、大豆、飼料用米、WCS用稲	取組面積に応じて支援
6	集積助成(そば)	1	5,000	そば	取組面積に応じて支援
7	集積助成(飼料作物)	1	2,000	飼料作物	取組面積に応じて支援
8	土づくり推進助成	1	2,500	大豆、飼料用米、	取組面積に応じて支援
9	資源循環助成(耕畜連携)	1	3,000	WCS用稲	取組面積に応じて支援
10	担い手加算助成①	1	3,000	野菜、花き・花木、果樹、その他高収益作物	担い手による作付面積に応じて支援
11	担い手加算助成②	1	5,000	加工用米	担い手による作付面積に応じて支援
12	担い手加算助成③	1	2,000	飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米	担い手による作付面積に応じて支援
13	加工用米複数年契約助成	1	5,000	加工用米	取組面積に応じて支援
14	飼料用米多収品種取組助成	1	2,500	飼料用米	多収品種による取組面積に応じて支援
15	【国】 そば、なたね作付助成	1	20,000	そば、なたね	作付面積に応じて支援
16	【国】 新市場開拓用米作付助成	1	20,000	新市場開拓用米 *コメ新市場との重複不可	作付面積に応じて支援
17	【国】 新市場開拓用米複数年契約助成	1	10,000	新市場開拓用米 *コメ新市場との重複可	作付面積に応じて支援
18	【国】 地力増進作物助成	1	0~20,000	地力増進作物	作付面積に応じて支援
19	WCS用稲専用品種取組助成	1	3,000	WCS用稲	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

用途1	用途2	その他作物名	作物分類
作物作付助成①	担い手加算助成①	ピーマン	野菜
		ハウレンソウ	
		アスパラガス	
		ニラ	
		早池峰菜	
		琴畑カブ	
作物作付助成②	担い手加算助成①	キュウリ	野菜
		ウド	
		シドケ	
		ゼンマイ	
		タラノメ	
		ワラビ	
		ブルーベリー	果樹
		ヤマブドウ	
		菊	花き 花木
		トルコギキョウ	
		カンパニュラ	
		りんどう	
作物作付助成③	担い手加算助成①	トマト(ミニトマト含む、加工用除く)	野菜
		なす	
		かぼちゃ	
		すいか	
		メロン	
		はくさい	
		レタス	
		だいこん	
		さやいんげん	
		未成熟とうもろこし	
		かんしょ	
		しいたけ	
		トウガラシ	
		カリフラワー	
		ブロッコリー	
		せり	
		ふき	
		みょうが	
		ごぼう	
		わさび	
		ホースラディッシュ	
クレソン			

用途1	用途2	その他作物名	作物分類
		ギョウジャニンニク	
		ウルイ	
		マコモダケ	
		ユウガオ	
		エゴマ	
		いちご	
		さといも	
		れんこん	
		ウリ	
		みつば	
		しそ	
		かぶ	
		やまいも	
		さやえんどう	
		落花生	
		赤カブ	
		アオマメ	
		パドロン	
		ナガイモ	
		パプリカ	
		ズッキーニ	
		ニガウリ(ゴーヤー)	
		シシトウ	
		パセリ	
		ハツカダイコン	
		チンゲンサイ	
		オクラ	
		ぶどう	果樹
		りんご	
		うめ	
		かき	
		くり	
		くるみ	
		サルナシ	
		カシス	
		ハスカップ	

用途1	用途2	その他作物名	作物分類
		ボケ	花き 花木
		ハス	
		モミジ	
		ヤマユリ	
		キキョウ	
		ヒマワリ	
		モロコシ(タカキビ)	雑穀
		アマランサス	
		アワ	
		ごぼうの種	種苗
		タマネギの苗	
		キュウリの苗	
		トマトの苗	
		ブルーベリーの苗	
		葉たばこ	その他作物
		小豆	
加工用青刈り稲			
ホップ			
作物作付助成 (景観形成作物)	/	レンゲ	景観形成作物
ヒマワリ			
コスモス			
菜の花			
そば			
あやめ			
ルピナス			
クローバー			
キガラシ			
マリーゴールド			
ヘアリーベッチ			
アマランサス			
ベゴニア			
ナタネ			
サルビア			
地力増進作物助成	/	ライムギ	地力増進作物
エンバク			
クローバー			
ハイオーツ			